

教職支援室便り（7月号）

令和7年 7月 11日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験（第一次試験）について

本年度の九州各県市の教員採用選考試験においては、すでに第一次試験の合格者を発表した自治体もあります。本学の学生の皆さんは、ほとんどの人が第一次試験を終わっていますが、それぞれ複雑な思いをもっていることでしょう。

学生の皆さんは、昨年10月からの「教職特別講座」に対して、実に誠実に、真正面から演習に取り組んできました。そのことを踏まえ、「人事を尽くして天命を待つ」という気持ちをもってもらいたいと思います。これまでの努力は、これからの教職人生を豊かなものにしていきます。

なお、九州各県市及び本学の学生の皆さんが受験した（する）自治体の、校種等、採用予定数、応募者数、倍率について下欄に掲載します。

自治体	校種等	採用予定数	応募者数	倍率
宮崎県	小学校	197	184	0.9
	小学校英語	3	5	1.7
	中学校英語	8	46	5.8
	高等学校英語	5	19	3.8
大分県	小学校	170	250	1.5
	中学校英語	20	42	2.1
	高等学校英語	6	30	5.0
長崎県	小学校	230	284	1.2
	中学校英語	15	37	2.5
	高等学校英語	13	23	1.8
福岡県	小学校	550	733	1.3
	中学校英語	55	59	1.1
福岡市	小学校	160	621	3.9
	中学校英語	25	53	2.1
北九州市	小学校	115	324	2.8
	中学校英語	7	25	3.6
鹿児島県	小学校	220	269	1.2
	中学校英語	20	46	2.3

佐賀県	小学校	2 0 0	1 8 0	0 . 9
	中学校英語	2 2	9	0 . 4
熊本県	小学校	1 4 0	1 6 1	1 . 2
	中学校英語	1 3	2 9	2 . 2
熊本市	小学校	1 2 7	1 6 6	1 . 3
	中学校・高等学校英語	1 2	2 8	2 . 3
沖縄県	小学校	2 5 0	5 7 3	2 . 3
	中学校	1 5 0	7 5 4	5 . 0
愛媛県	中学校英語	2 0	未発表	未発表
静岡県	中学校	1 0 0	6 0 8	6 . 1

夏季教職特別講座が始まっています

本年度は、九州各県市等の教員採用選考試験（第一次試験）が、先月6月15日（日）に行われたことから、第二次試験への取組「夏季教職特別講座」を、6月17日（火）から始めています。本講座は、例年であれば夏休み期間中に行いますが、昨年度から1か月早い開始としています。本講座への取組を通常の授業等と並行して行うことから、学生の皆さんも大変だと思いますが、私自身も支援する時間を確保することに苦慮しているところです。

本講座の具体的な内容としては、第二次試験対策として、個人面接、集団面接、模擬授業、集団討論、グループワーク、場面指導、小論文などの演習に取り組みます。大切にしていることは、学生の皆さんの誠実さに裏打ちされた主体性です。学生の皆さんが、演習内容を含めて週計画を立て、私はそれを支援するようにしています。毎年、この期間の講座では、特に相当の時間をかけて演習を行っています。担当者としても、知力、体力が求められますが、とても充実した時間を、学生の皆さんと共有しています。

面接試問「557」を活用した面接演習

「557」の面接試問で構成される面接試問集をもとに面接演習を行っています。この「557」の試問は、次の15の観点で編集したものです。

- 1 受験自治体に関する事
- 2 生徒指導に関する事
- 3 保護者対応に関する事
- 4 これまでの経験に関する事
- 5 教員としての資質・能力に関する事
- 6 人柄・性格等に関する事
- 7 コミュニケーション力に関する事
- 8 学習指導力・授業力に関する事



<面接演習の様子>

- 9 学級経営に関すること
- 10 徳育に関すること
- 11 大学生活・教育実習に関すること
- 12 教職等に関すること
- 13 学校教育全般に関すること
- 14 服務規律に関すること
- 15 その他に関すること

<面接試験のポイント>

- ① 教師になりたいという情熱度
教師を志望する動機の強さ、児童生徒への教育的愛情の深さを、前面に出して応答する。
- ② 誠実さ・責任感・協調性
教育に対する使命感や情熱に裏打ちされた応答、誠実さ・責任感・協調性などを感じさせる発言が求められる。
- ③ 話す力・表現力
言語の明瞭さ、話す速さや声量、敬語の使い方などに留意する。また、話に一貫性があるか、簡潔にまとめているか、説得力があるかなども評価される。
- ④ 教育公務員としての態度・礼儀
教育公務員としての礼儀正しさ、表情の好感度、謙虚さが求められる。また、服装、髪型など、適切な身だしなみが重要である。

特に、①と②については重要なポイントになります。つまり、「自分の考えを率直に述べ、教師になりたいという思いを、初めて出会う人（面接官）にしっかりと感じさせる力」が求められるということです。

その力を確かなものにするために、学生の皆さんはこの「5 5 7」の試問を通して、演習に取り組んでいます。この演習の中で、これまで培ってきた教職教養等の知識・理解を活用し、応用することが自然にできる自分に気付いていきます。また、面接試験への自信を付けるとともに、教職への更なる理解も深まっていき、自分の言葉で、自分の思いをのせて、相手に伝えることができるようになります。

特色のある面接演習の取組

面接演習において担当者が大切にしていることは、学生の皆さんからの質問（疑問）にすべて明確に回答するということです。また回答例を伝えるだけでなく、その回答に至った理由にも触れるようにしています。これまでの教職教養の演習を振り返りながら、学校現場の状況を踏まえながら、教員としての基本的な考え方にに基づきながら、分かりやすく解説をしています。この演習を積み上げていく中で、学生の皆さんの応答に余裕が感じられるようになり、その内容にも深まりが見られるようになります。

具体的には、次の要領で演習を行っています。

- ① 面接演習での担当教員とのやり取りを録音する。
- ② 録音を再生して、担当教員に質問したいことや確認したいことを明確にする。
- ③ ②をもとに、担当教員に質問や確認を行う。
- ◇ 自分に対する試問だけではなく、他の人への試問に対する回答内容の在り方も質問する。
- ◇ 質問された回答内容については、すべて担当教員が参考回答を提示する。
- ◇ どんなに細かなことでも質問するようにする。
- ◇ 自分の回答とともに、担当教員の参考回答についても、すべて記録しておく。
- ◇ ノートに記録を累積していくことで、貴重な面接演習の資料とする。

道徳の教科化に思う！（シリーズ98）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について述べてきましたが、今月号から「生きる力をはぐくむ道徳授業の創造～発問や資料選択を児童にゆだねる道徳の時間の指導の在り方～」について連載したいと思います。これは、児童が主体的に考えを述べ合い、高め合う姿を求めての、私の小学校における研究実践です。

現在「考え、議論する」道徳授業が強調されていますが、実践を振り返ってみると、登場人物の言動や気持ちについて、切磋琢磨しながら友達と話し合う児童の姿が見られたと思っています。それは、「考え、議論する」姿であったと考えます。

今回は、「テーマ設定の理由」「研究の目標」「研究の仮説」「研究内容」について掲載します。

生きる力をはぐくむ道徳授業の創造 ～発問や資料選択を児童にゆだねる道徳の時間の指導の在り方～

1 テーマ設定の理由

道徳の時間が特設されて以来今日まで、道徳の時間の基本的な指導について研究が重ねられてきた。この時間が、道徳性を養うという特性をもつことを考慮した学習指導過程の研究や、発問、教材の取り上げ方、学習形態等の研究が推進され、研究の成果は道徳教育を大きく推進させてきたと考える。

さて、個性重視の原則のもとに、児童のよさや可能性を大事にし、生きる力を育てる学習指導が大きな課題である。しかし、生きる力を育てると言いながら、あるいは児童の側に立った主体的な学習の成立と言いながら、以前として教師主導型から脱しきれないという状況がある。また、学力向上をめざす中で、教師の独断で特定の教材を児童に与えるだけの道徳の時間の指導など、道徳教育研究の後退と言わざるを得ない現実もある。

そこで、本研究では、生きる力を育てる道徳の時間の指導を志向し、児童の発想や道徳的価値観、自己学習力を十分に発揮させる支援の在り方を明らかにしたい。そして、道徳の時間が児童にとって、自ら学ぶ意欲をもち、思考力や判断力を深め、確かな表現力を身に付け、互いに考えを主張し合い、学習の成就感を真に味わえる時間となるよう、道徳の授業の在り方を求める研究を進めたいと考える。さらには、他教科等における学習指導の充実へと広がることも期待するものである。

2 研究の目標

道徳の時間を児童の側から見直し、児童の発想や道徳的価値観を重視して自己学習力を十分に発揮させ、道徳性を身に付ける道徳の時間を創造する。

3 研究の仮説

(1) 道徳の時間の重点的指導という立場から、一つの内容項目について年間に複数時間を計画する授業構想を工夫すれば、児童の主体的な学習が成立するのではないかと。

(2) 仮説(1)にいう複数時間それぞれの単位時間における学習指導過程や指導方法の改善を、重点的な指導の在り方という観点から図れば、児童の道徳性が身に付くのではないかと。

- (3) 仮説(1)(2)による単位時間の学習において、資料選択や発問を児童の側にゆだねる学習指導方法を開発すれば、生きる力を育てる道徳の時間の授業創造が実現するのではないか。

4 研究内容

- (1) 一つの内容項目についての複数時間配当する道徳の授業計画
- ① 指導計画作成の工夫
 - ② 一単位時間の性格付け
- (2) 児童の側に立つ学習指導過程の改善と教師の手立て
- ① 「ねらい」の設定の在り方
 - ② 児童による資料選択の方法
 - ③ 児童が作り出す発問の工夫
 - ④ ワークシートの内容の工夫
- (3) 効果的な学習形態の工夫
- ① 自力解決の場の位置付け
 - ② グループ学習のさせ方

次回は、「4 研究内容」に関して具体的に述べたいと思います。